

第1期総合戦略 数値目標進ちょく状況一覧

まち・ひと・しごと創生懇話会資料No.1
令和2年8月28日

人口の推移

指標名	単位	基準値	実績値	将来展望	評価
各年度4月1日現在の人口	人	74,303 (H26)	76,282 (R2)	74,642 (R2)	A

<評価凡例>
A・・・目標値を達成
B・・・未達成だが向上
C・・・横ばい
D・・・低下

当市の人口は依然として社会増による微増傾向が続いており、総合戦略で示した将来展望を上回る数値となっている。
国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」において、当市の人口は2030年まで増加を続け、その後減少基調となり、2045年において対2015年比98.5%という総人口指数が示されている。また、令和元年に実施した国立市住民基本台帳人口に基づく独自推計では、2020年から2025年頃がピークとなり、その後ゆるやかに減少すると推計されている。
いずれの推計においても、人口構成の面では少子高齢化の波を受け、年少人口、生産年齢人口が減少し、高齢人口が増える点は見込まれている点は従前のおりである。

基本目標1 子育て世代に選ばれるまちを作るとともに、安定した雇用を創出し、次世代を育成する

【数値目標】

指標名	単位	基準値	実績値	目標値	評価	指標の説明又は出典元
子育てのしやすい環境が整っていると思う市民の割合	%	63.9 (H26)	59.6 (R1)	69.6 (R1)	D	国立市市民意識調査(18歳以下の子どもがいると回答した市民を対象)
合計特殊出生率	—	1.24 (H26)	1.30 (H30)	1.40 (R1)	B	東京都人口動態統計

「子育てのしやすい環境が整っていると思う市民の割合」は、待機児童問題が社会的に注目された平成28年度に49.9%まで大きく低下したが、その後は毎年上昇している。合計特殊出生率は、目標値には届かなかったものの、平成30年度には1.30まで上昇した。
市では子育て施策を重点施策に位置付け、待機児童解消に向けた取組や子ども総合相談窓口の開設など、子育て家庭の多様なライフスタイルに対応し、地域全体で子育てを支援する環境づくりに積極的に取り組んできた。学校教育においても、学力向上、体力向上をはじめとする取組を効果的に推進している。引き続き、子育て期の世帯を対象とする更なる支援の充実、文教都市にふさわしい教育水準の向上に向けて施策を推進する。
また、安定した雇用の創出はコロナ禍においてよりその重要性を増しており、効果的な創業・就業支援を引き続き図っていく。

基本目標2 安心・安全なまちづくりを推進する

【数値目標】

指標名	単位	基準値	実績値	目標値	評価	指標の説明又は出典元
地震や災害が起こった時に生命・財産が守られると思う市民の割合	%	23.5 (H26)	28.8 (R1)	36.5 (R1)	B	国立市市民意識調査
市内の刑法犯発生件数	件	754 (H26)	437 (R1)	700 (R1)	A	東京都の自治体別刑法犯発生件数(警視庁)
高齢者の就労率	%	25.8 (H26)	15.0 (R1)	26.0 (R1)	D	日常生活圏域ニーズ調査(※H26及び目標値は65歳以上が対象。R1実績値は75歳以上が対象。)

発災時に「生命・財産が守られると思う市民の割合」は、上昇してはいるものの目標値には届かなかった。本指標は市民の災害に対する危機意識を反映するものとも考えられる。市民生活の土台ともいべき「安心・安全」の確保のため、防災・減災について今後も重点的に取組を進めていく。

防犯については、市内の刑法犯発生件数の指標は大きく減少し比較的高い水準にあると言える一方、特殊詐欺被害件数は依然横ばいである等、引き続き防犯意識の向上、防犯体制の強化等に取り組む必要がある。

また、高齢者の就労率は対象年齢の変更も受け低下したものの、住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせるまちづくりの基盤が整備されてきていることはKPIにおいても示されており、本市が先進的に取り組んでいる地域包括ケアシステムの構築を今後も進めていく。

基本目標3 都市としての魅力「国立ブランド」を高め、発信する

【数値目標】

指標名	単位	基準値	実績値	目標値	評価	指標の説明又は出典元
住み続けたい市民の割合	%	81.2 (H26)	85.2 (H30)	84.2 (H30)	A	国立市市民世論調査
休日の滞在人口	人	55,867 (H27)	55,123 (R1)	56,858 (R1)	C	RESAS(※H27よりRESASの指標の取り方が変わったため、基準値・目標値とも変更している。)

「住み続けたい市民の割合」は平成30年度の調査では上記の値だったが、令和元年度の「市民意識調査」では同様の設問の回答が80.1%であり、一定水準にあるとはいえ必ずしも樂觀できる数値ではない。「休日の滞在人口」もほぼ横ばいの数値となっている。

国立駅周辺は、国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザや周辺道路の整備などが着実に進捗しており、特に旧国立駅舎は市のランドマークかつ情報発信拠点としてまちのにぎわい創出に寄与することが期待される。季節ごとに市のにぎわいをもたらしてきた各種のイベントは、令和2(2020)年度においては新型コロナウイルスの影響で軒並み中止を余儀なくされた。今後はまちの賑わいを取り戻すため各種イベントの再開に向けた方策が求められる。

また、南部地域の重要な資源である農業・農地を守りその魅力を発信するための各種取組についても、農地の減少が緩やかになるなど一定の成果が見受けられる。都市農地の位置づけが見直されつつある状況を受け、引き続き農業振興・農地保全に取り組んでいく必要がある。